

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU

CHARTERED 1995



2015~2016年度 No.186

7月 月報

那須クラブ会長 主題

拓こう 築こう ワイズの世界

那須ワイズメンズクラブ



6月例会 2015年6月19日 於：那須YMCA

2015~2016年度 主題

国際会長：(IP) Wichian Boonmapajorn (タイ)

「信念のあるミッション」

アジア地域会長：(AP) Edward K.W. Ong(シンガポール)

「愛をもって奉仕をしよう」

東日本区理事：(RD) 田中 博之(東京)

「原点に立って、未来へステップ」

北東部長：中川 典幸(仙台)

「今と原点を融合して未来へ」ー楽しく改革・笑って行動ー

クラブ役員 事務局

会長：田村 修也

副会長：村田 榮

河野 順子

書記：荒井 浩元

会計：鈴木 保江

担当主事：荒井 浩元

ブリテン：田村・村田

6月例会データ (出席率：67%)

在籍者 6名

例会出席者 3名 ネット 1名

ビジター 12名

今月の聖句

「父よ、あなたが私の内におられ、私があるあなたの内におられるように、すべての人を一つにしてください。彼らも私たちの内におられるようにしてください。…」

ヨハネによる福音書 17:21

東京目黒クラブ

7月 Happy Birthday

7/16 山梨 雄一

7/18 村田 紀美子

那須クラブ

7/11 鈴木 保江

巻 頭 言

副会長 村田 榮

今年の3月14日に那須ワイズメンズクラブ設立20周年記念感謝例会を開催することが出来ましたことを主に感謝いたします。那須ワイズの設立原点を見直す機会であり同時に次へのステップへの始まりでした。東京目黒クラブとのDBC締結はその始まりです。主がその時を与えてくださり、主の働きあったことを覚えます。

那須ワイズメンズクラブの活動を外部の方々から見ると、「なにをやっているかわからない・何もやっていないのでは？」と思われていたことでしょうか(こう思うのは小生一人の思いかな?)。中に入ってみると他のクラブに勝るとも劣らない活動をやっておられました。

足りないことがあるとすれば、ワイズのモットー(標語)である「強い義務感を持つ、義務はすべての権利に伴う」の実行でしょうか。少ないメンバーでの会費では、YMCAへの奉仕を精一杯すればするほどに伴う費用が生じそれを賄うことが精いっぱい、区・部への拠出金もままならない状況にあります(本当にジレンマを覚えます)。

メンバーの殆どが社会の一線で活躍中、時間を調整するにも中心になるのが社会生活です。そのためにワイズの大会・部会等に参加できない状況にもあります(これも本当にジレンマを感じます)。

これからの那須ワイズは、東京目黒クラブや他のクラブとの交流を盛んにし、他クラブの地域での働きを学びつつ、メンバー一人ひとりが健康に留意しながら、YMCAへの忠実な奉仕をし、栃木県北の地域とのつながりを深めていきメンバー増強(EMC)に結び付く活動になることを主に願わずにはおれません。

前月号の田村会長の巻頭言にもありました「すべてに神が働いてくださったこと、与えられた恵みへの感謝」(「365日の聖書」賀来周一著から)の気持ちでこの1年の働きを進めていきたいものです。

6月例会(那須YMCA活動報告会)

記録：荒井 浩元

日時：6月19日(金)午後6時30分～

午後8時30分

場所：那須YMCA

参加者：田村会長、村田、荒井。メネット：田村。

ゲスト：大下正人牧師(西那須野教会)、菊地創さ

ん、ユースリーダー8名(チャン、あゆ、しゅうまい、かとう、もっちゃん、いもに、すっちー、さぶちゃん)、藤生(YMCA職員)合計：16名

6月例会は、「2015年度那須YMCA地域活動報告会」への参加例会ということで例会を行いました。那須YMCAの活動報告会とワイズ例会を那須YMCAの会館で行えるということはとても有意義ではないかと感じました。

最初に、那須YMCA設立時に担当した藤生より、設立時の熱い思いを振り返るとともに挨拶があり、那須ランチ委員長(クラブ会長)の田村修也さんより希望に満ちた挨拶の言葉を頂きました。

その後、ユースリーダーたちが作ったカレーライスを皆で頂きました。ユースリーダーたちが作るカレーライスは、ワイズ例会の定番料理となりました。食後は、職員の荒井より那須YMCAの2014年度活動報告及び今年度の計画の発表を行いました。次は、那須YMCAで活躍するユースボランティアリーダーの認証式を行いました。



2014年度の日本YMCAユースボランティア認証を受けた那須YMCAリーダーは5名(内、2名は実習の

ため認証式を欠席)です。認証を受けたリーダーたちにこれからの活躍に期待とエールを送りました。那須ワイズ、那須YMCAは「ユース育成」を担っている所だと改めて感じることできた時間となりました。ワイズ報告は、村田副会長より東日本区大会の報告がありました。那須クラブでは、DBC締結賞をはじめ、IYC努力賞等沢山の賞を頂きました。那須クラブの一つ一つの活動が、評価して下さったのでしょうか。その後、出席している方々から今後の那須YMCAについて意見を共有していき、「地域ボランティアをしてみたい」、「レクリエーション講習会をしてみたい」、「ユースリーダーとのディベートをしてみたい」など様々な意見が出されました。今回の報告会では、ワイズ、会員、YMCA、ユースボランティアリーダーが集い、那須YMCAでのそれぞれの存在意義を改めて感じることできた素晴らしい報告会を開催することができ感謝しております。

6月役員会報告

日時：6月5日(金)18:30～

場所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、荒井書記、田村メネット

協議事項

1. 6月例会について

6月19日(金)午後6時30分～。西那須野教会にて、とちぎYMCA報告会を行う。内容は、那須YMCAの活動報告を行う。

2. 那須街道赤松林の下草狩りの件

6月8日(月)午前8時より行う。

3. 第18回東日本区大会出席の件

2015年6月6日(土)～7日(日)に厚木市文化会館にて開催。村田メン・メネットが出席。

4. 7月役員会と例会の件

7月3日(金)午後6時30分～、ココス西那須野乃木店。例会は、とちぎYMCA塩沢総主事を迎えて行う。日程についての調整は、荒井担当主事に一任。

5. 副会計設置の件

荒井書記を副会計とする。

6. 東京目黒クラブとの交流会の件

東京目黒クラブが2015年8月26日(水)～28日(金)の2泊3日で「北区しらかば荘」での移動例会を開催。那須クラブとして、27日(木)の夜に1泊で交流会を行う。なお、当日の昼の間に、田村会長による「那須疎水」を案内・説明を行う。

7. ブリテンの内容について

今後の予定

・7月例会(キックオフ、総主事と共にYMCAのめざす夢を語ろう)

日時：7月23日(木)午後6時30分～

場所：西那須野教会

内容：那須YMCAの将来、年間行事計画
塩沢達俊総主事による「県北での活動展開」について語っていただき、リーダーと共に協議を行います。

・7月役員会

日時：7月3日(金)午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

・北東部第1回評議会

日時：7月25日(土)午後1時30分～

場所：仙台YMCA会館

・那須街道赤松林の植樹したところの下草狩り

日程は未定、後日連絡。

旧西那須野(那須西原)の緑と水(27回)

田村修也

前回、大分県宇佐市の教育委員会に照会して「疎水の父100年の夢—南一郎平の世界」という出版物を送って頂いたことを記載しました。この本を通して、改めて南一郎平の足跡の大きさ、いや偉大さを知らされました。若し日本が食糧難、飢餓に苦しみ、食料生産への、安定供給の実現のための地域開発への弛まざる挑戦がなかったならば、私達の今日は随分違ったものになっていたでしょう。沖方丁著の「天地明察」を読んで、会津藩主保科正之の治世には、藩内の新田開発が進められ、藩内各地に食料備蓄倉庫が完備し「会津に飢者なし」といわれ、あの飢饉の時には他藩へ食料支援をしたことが書かれてありました。米沢藩の上杉鷹山も新田開発には力を注ぎ、黒川堰による用水完成により稲作ができるようになった。その経緯が大木一夫著の児童文学「若き鷹たち—水の詩—」にまとめられています。また備中松山藩(岡山県内)では藩主板倉氏に抜擢された農民出身の家老山田方谷によって新田開発が進められたことが童門冬二著「小説河井継之助」に書かれています。一方多すぎる水との苦闘の歴史も多くの地域に残されています。松谷みよ子さんは民話の聞き取りをして全国を巡りました。その集大成とも言えるべき作品が国際アンデルセン賞を受賞した「龍の子太郎」です。この物語も沼を干拓して広大な沃野を築き上げていく物語です。斎藤隆介さんの名作「八郎」、そして埼玉県内幸手市と杉戸町にまたがる大島新田開拓ものがたりは篠崎恵昭著「清兵衛八日」として地元さきたま出版会から発刊されています。ここには沼地に溝を掘り、手でさらしながら、ひとすくいひとすくい泥や砂を掘り上げて田んぼにしていたことが書かれています。このような技術は各藩という時代の中でそれぞれになされていて、技術が藩を越えて普及することは希であったと思われます。南一郎平の広瀬井手(用水)への取り組みは、明治維新という国家形成の過程で大分県の宇佐地方の技術者が中央政府に引き出されて、日本全国の難工事への取り組みに携わることになったのです。歴史の摂理を感じます。広瀬井手の成功は、安積疎水、那須疎水、琵琶湖疎水等のおおもととなった記念すべき大事業なので、特に、「南一郎平の世界」の年表「南一郎平と広瀬井手」から抜粋を記載させて頂きます。

- 1751（宝暦元）麻生善右衛門最初の広瀬井手開削工事に着手（6年間で中断）
- 1814（文化11）富田久兵衛と矢野與兵衛による第2回起業開始
- 1821（文政4）難工事と資金難で中断
- 1828（文政11）西国郡代塩谷大四郎による第3回起業開始
- 1835（天保6）第3回起業中断
- 1836（天保7）南一郎平、金屋にて市郎兵衛の長男として出生

「堪忍陰徳」「一日学」を教育理念とした父母より中江藤樹・「光圀卿壁書」・「東照宮教訓」等の訓話を教わる。更に長ずると父より「大学」の講義を受ける。

- 1856（安政2）父一郎兵衛宗保死亡。広瀬井手工事再開と完成を一郎平に遺言

- 1861（文久元）一郎平（25才）、広瀬井手工事再興を決意し同志をはかる。（第4回の起業）

- 1862（文久2）広瀬井手工事再興、着手することなく断念

- 1864（元治元）一郎平、広瀬青邨を介して府内（大分市）の広瀬久兵衛に資金援助懇願、確約を得る。沿村の有志と連署で島原藩高田役所へ井手工事再興の願書を提出

- 1864（元治元）島原藩、井手再興工事を許可、続いて中津藩・宇佐神社からも許可を得る

- 1856（慶応元）一郎平ら、広瀬井手工事に着手（第5回起業）。主な故障場所を三領御奉行により立会検分

- 1857（慶応2）「井手切手」発行の願書を四日市役所に提出。

隧道内補強工事多発のため宇佐助藤平御林の松3325本の取下げ方出願。工事の都合上、詰所を沖会所から拝田新洞へ移す。拝田柳ヶ谷の車橋完成宇佐地獄谷まで通水。雨で随所に山崩れ、隧道内の落盤等を生じ、復旧工事難航。宇佐以北、高森・金屋・長洲・岩保新田までの水路工事に着手。「井手切手」の両替困難により、日田代官所高田役所の公金借用。

- 1868（慶応4）公金の期限内返済ができず入牢中の一郎平、御許騒動による四日市役所焼き討ちで助かる

- 1868（明治元）長崎の澤宣嘉総督に総工費の支弁・残工事についての格別の援助を請願。巡察使2名直ちに来る

- 1869（明治2）松方正義日田県知事、水路全線の巡察を行う。

天朝御普請所の大命（国による直営工事の許可）

がおりる。高森井手の開削に着手。高森井手完工。
○1870（明治3）広瀬・高森両井手の通水式挙行。日田県、工事の会計整理を行い、国からの財政援助を打切る。残工事一切は一郎平の単独事業となる。松方日田県知事、宇佐から高森井手へかけて水路検分を行う。「井手切手」不信用により資金調達困難となり、二度目の入牢。借入金二万両となる。（以下次号へ）

那須街道赤松林植栽地の下刈り実施

田村修也

塩那森林管理署森林技術指導官の山岸さんから電話があり、今年も春に実施した植付け地の下刈りをお願いしたいということでした。1昨年まで私たちは春と秋に苗木を植えるだけで、その後の保育である下刈りは国有林が行って来ました。昨年初めて要請があって下刈りを行いました。その経緯を踏まえての連絡でした。

草刈りは朝、まだ朝露が消えないうちがいいと言われていて、それは草が柔らかく切れ味がいいからで、時間が経つに従って草が固くなっていくからです。これを念頭に6月8日（月）朝7時30分に家を出て、菊地家、鳥越宅を回って8時に現地に着きました。村田さんはもう一足先に来ていて、身支度を整えいつでも作業に取り掛かれるようにして私たちを待っていてくれました。

植付け地は、4月には想像できなかったほど山百合が自生していて、村田さんと菊地さんは草刈り機で山百合の影響のない植え苗の周辺を、私と鳥越さんは鎌と木鋏、除草具で山百合を痛めないように植え苗が混生しているところをと分担して実施しました。

森林造成において保育、特に下刈りは植付けよりも大切と言われます。それはせっかく苗木を植えてもそのまま手入れを怠れば、成長の遅い小さな苗木は、成長の早い草やつる等に鬱閉されて、蒸されたり陽光を奪われて枯死しまうからです。植えたばかりの苗は小さく根も弱く、雨に恵まれない所が多いので、自力で先端が草丈よりも高くなるまで数年は必要な保育作業です。今年第2回目は7月上旬に実施を予定しています。

那須ワイズは、植林地を塩原の大沼周辺からこの那須街道赤松林に移してから10年近くなります。初めに植えた苗木は毎年車状に枝を出しながらグングン大きくなっています。

草本類との競争を抜け出した若木は青少年のように大空をめざして成長し続けています。

YMCA 報告

【フィリピンからの学生 2 名がとちぎ YMCA に約 1 週間滞在しました！】



6 月 1 日（月）までとちぎンキャンプで受入の協力しリーローザリー大学の学生に滞在しました。滞在中は、環境問題を中心に、リーダーシップの学びもできればと願い、とちぎ YMCA ユースリーダーとの交流や、環境についてのフィールドワーク、さくらんぼ幼稚園・ようとう保育園訪問などをしていきました。彼らはどこに行っても、どんな方にお会いしても、積極的に学びとろうとしていました。今年の 8 月のフィリピンキャンプでは、受入をしてもらえることになっております。

【ワールドチャレンジ 2015 に参加しました！】



今年も世界中の YMCA で行われている、ワールドチャレンジに参加しました！今年のテーマは「サッカー」です！とちぎ YMCA では、ボールを持って個性あふれるポーズで写真を撮るというチャレンジと、ワールドチャレンジ PR 動画を作成いたしました！写真の

チャレンジでは、合計 123 枚の写真が期間中に集まり、約 150 名の方が参加頂きました！また、ワールドチャレンジ PR 動画では、宇都宮市から指定管理を受けている宇都宮市青少年活動センター（トライ東）のスタッフや利用者の方々の協力により作成されました！みなさまのご協力ありがとうございました！

アジア学院だより

「共に生きるために」

学校法人アジア学院
アジア農村指導者養成専門学校
校長 荒川 朋子

アジア学院のモットーは「共に生きるために」である。これはどういう意味か。

この言葉がモットーとなっただけは次は次の通

りである。1972年の暮れ、今のアジア学院の所在地に本館の建築が始まろうとする時に、当時の理事のひとりが礎石の設置を提案した。創設者で当時の理事長、校長であった高見敏弘は礎石を書くことなど思ってもみなかったもので、それから何時間か必死にこれから始まる学校の礎になるべき言葉を探し求めたそうだ。その時にひらめいた言葉が「共に生きるために」であったということだが、高見はこのことについて、「これは私が作った言葉ではなく、聖書の中に出て来る言葉で、また、聖書を貫いて示されている基本的な人のあり方を表現している言葉である。」と言っている。そしてさらに「私は、これこそは私達の願い、また私たちの進むべき道を明らかに示してくれる、そしてどこの国のどのような人々もこれこそは我々の願いだといえるような言葉だと思った。」としている。

今でこそこの言葉は様々な団体や会社で標語として使われ、使い古された感もある言葉であるが、当時はまだこの言葉は他では使われていなかったという。即興で思いついた言葉だと言われているが、アジア学院のような多宗教、多文化の人々の集まるコミュニティにおいてこれ以上大きな力を発揮する言葉はないと思っている。

やがてこの言葉はアジア学院に定着し、学院で大きな決断をしなければならない時、迷った時、我々に指針を与えてくれる言葉へと成長していく。そのひとつの例がアジア学院の20周年記念に発行された、その名も『共に生きるために』という記念誌に高見によって述べられている。

この言葉をモットーに掲げたことは幸いだったと思うが、「共に生きるために」ということが人間の命を支えるために、人間だけが協力するとか、分かち合うということでは到底出来ないことがわかってきた。創立当初は、アジア学院でも、農薬とか化学肥料を使って、狭い面積でできるだけ大量の食料を生産することが、現在の食糧問題に対処するやり方であると思い、またそういうやり方だけを学院で教わった人たちが指導員になって教えるわけで、化学肥料の使い方、農薬の使い方を授業で教え、畑で実習をしていた。

これはしかし、初めの1年で終わった。2年目から、「共に生きるために」ということを、より真剣に考える場合、本当にこういう食料生産の仕方でのいいのだろうかという反省が、職員から出始めた。また、農薬による被害、特に農民自身が命を失い、また身体障害者になる事が報道され、実際に農村で出会うこともあった。不用意に農薬とか

化学肥料を使うこと、また不必要に大型機械を使うこと、これは決して日本人のためにならないし、アジア、アフリカの人々に教えることはかえって、彼らに災いをもたらすのではないかとの反省が起こり、急きよ有機農法に切り替えることにした。創立2年目の74年のことだ。

今やアジア学院の研修の根幹を成す有機農業であるが、この農法は「共に生きるために」というモットーから導かれたものであった。聖書を貫くメッセージは人の思いを超えて私たちに働きかける。そのひとつの例がここにあると思った。そうして与えられた方針を私たちは喜びをもって受け、40年間守り続けてきた。本当に感謝すべき指針を与えられたと思う。

第18回東日本区大会に参加して

村田 榮

6月6日(土)・7日(日)の両日、那須クラブより小生とメネットが、厚木市文化会館・レンブラントホテル厚木で開催された第18回東日本区大会に参加してまいりました。参加者は431名と発表。メネットは、午前10時30分からのメネットのつどいから参加しました。第1日目は、午後1時オープンセレモニー・バナーセレモニーで始まり、開会式、メモリアルアワー、東日本区アワーI(理事報告、部長報告、事業主任報告)、記念講演(ロボットの力)、分科会と進んだ。記念講演は、神奈川工科大学先進技術研究所所長の山本圭治郎教授によるロボットの現状と未来についてのお話で第18回東日本区大会のテーマ(ここから未来へ)に相応しく、介護の分野で働く補助ロボットのお話でした。大変興味を持ってお話を伺いました。その後会場をレンブラントホテルに移して、厚木中学校吹奏楽部の演奏、晩さん会と午後9時まで続いた。

二日目は、聖日礼拝、東日本区アワーII(事業・



理事表彰)、理事・役員引継ぎ式、閉会式と続いた。那須クラブは、村田の表彰を含めて6つの表彰を受けた。田中博之理事から

2015-2016年度渡辺隆理事に引き継がれて新しい年度の働きが始まりとなった。次年度の第19回東日本区大会は、長野・松本での開催です。今から予定をして参加いたしましょう。第1

8回東日本区大会の詳細については、下記の東日本区ホームページでご覧下さい。

<http://ys-east.jimdo.com/rd-report/2014-15-東日本区ニュース/>

東日本区大会における那須クラブ表彰一覧

- ・DBC締結賞
- ・YIA努力賞
- ・ロースター広告協力賞
- ・CS献金達成賞
- ・ノンドロップ賞
- ・年賀切手収集貢献賞第2位(村田榮)



編集後記

・東日本区の理事通信7月号を見て新しいニュースを載せるべく準備をしていたが発行が遅くなるので発行することにした。

・今月号も盛りだくさんになったが、来月号からは、さらに充実した号になるように努力をした。

・先月号では、雨が少なく…と書いたが今は、雨が多くて大変である。梅雨の末期である。各地での雨による被害が少ないことを祈る。

・那須と同じように山を中心とする観光地、箱根での噴火警報が1ランクあげられて、規制地域が広がり、観光地の風評被害が広がりつつあるようで心配。